

SEA LIFE NEWS

TOKYO SEA LIFE PARK



葛西臨海水族園

ウツボ

【英名】 kidako moray

【学名】 *Gymnothorax kidako*

日本周辺の温暖な岩礁域にくらす魚です。太く長い体の特徴で、背ビレと尾ビレがつながって1枚のヒレになっています。水槽内では岩と岩のすき間に入り込みじっとしていることが多いのですが、泳ぐ時には体をクネクネと動かします。ウツボは、口を開けたり閉じたりすることにより、えらに海水を送って呼吸をしています。口が大きく開いた時に、歯に注目してみましょう。獲物をとらえるためにとても鋭くなっており、タコやエビ、カニなどに素早くかみつきのまま丸のみします。ウツボを展示している「しおだまり」コーナーでは、水槽の上からも横からも観察ができます。ぜひ、さまざまな角度でウツボを観察してみてください。

(飼育展示係 加藤 舞)



CONTENTS

SEA LIFE TOPICS

- 正面から見てみよう

なぎさNEWS

- 「西なぎさ」でスナガニを見つけた
- なぎさで探そう! こんな生き物「イワムシ」

水族園のもう一つの顔

- 標本の作り方 液浸標本編

TSLP LATEST

Vol.21 No.5 2023

OCTOBER

通巻

112

SEA LIFE TOPICS



アカシュモクザメ

正面から見てみよう

正面から見るとヘンテコリン。そんな形で何か良いことがあるのかな？
今号では、水族園のなかでも特徴的な正面顔をもつ魚をいくつかご紹介します。



左右にのびた顔とはなれた眼 アカシュモクザメ

顔は左右にのび、その両端に眼があるアカシュモクザメ。英語ではハンマーヘッドシャークとよばれ、上から見た姿はまさにハンマーそのものです。この横長の顔には、いくつかの機能があるといわれています。まず、両端に眼があることで、視野が広がります。また、エサとなる生き物が発する弱い電気を感じ取るロレンチーニ器官が広い顔の下側に多くあり、これをまるで金属探知機のようにつかうことで、海底のエサの位置を正確に特定できるといわれています。さらに、横に広がるこの顔は、飛行機のつばさのように揚力を生んでいるとも考えられています。

横顔で見おろす ルックダウン

高い体高に、大きなV字型の尾ビレと鎌のような形の胸ビレ。そして、おでこが出張ったようなユーモラスな顔つきの魚、ルックダウン。その面長の顔で底の方を見おろしているような様子は、「名は体を表す」という言葉がぴったりです。横から見た姿も特徴的ですが、銀色の体をひるがえしこちらに顔を向けた時、その印象はガラリと変わります。体は左右から押しつぶされたようにとてもうすく、正面から見ると線のように見えるため、ルックダウンに狙われた生き物は、一瞬、その姿を見失ってしまうかもしれません。



横から見てもユーモラスな顔つき

平たい体を使いこなす マコガレイ

マコガレイは、東京湾でよく見られるカレイのなかまです。カレイのなかまは、平たい体の右側に飛び出た二つの眼があり、この面を上に向け海底に体を横たえて生活しています。平たく、周囲と同じ色をした体は、砂地や泥地にまぎれるのに役立ち、飛び出た眼は、上方の捕食者やエサを見つけるのに役立つと考えられています。マコガレイは、捕食者を見つけた時は素早く砂の中に隠れて身をまもり、エサを見つけた時は瞬時に泳ぎ出し、大きく飛び出す口で甲殻類や貝類などをとらえます。

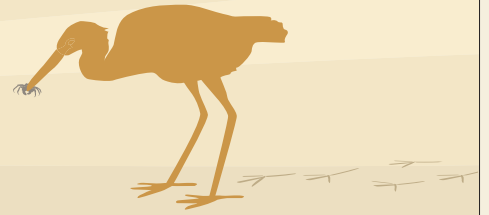


砂にまぎれる体の色と平らな形

魚類を観察する時、体の横側から見るのが多いですが、正面から顔を見てみると、ひと味違った表情が見えてきます。その形には、便利な理由が隠されていることも。時にはいつもと違う角度から観察してみると、面白い発見があるかも知れません。

(飼育展示係 松村 哲 / 笹沼 伸一 / 森田 夕貴)

なぎさ NEWS



「西なぎさ」でスナガニを見つけた

7月の始め、「西なぎさ」で底生生物調査を行いました。この日は梅雨の最中にも関わらず晴れて暑く、2時間ほどの作業でスタッフ4名は汗だくになりました。干潟での調査を終え、ほっとしながら陸へもどる途中、乾いた砂浜に直径2cmほどの穴を見つけました。ここは満潮時に波打ち際にあたる所で、穴をのぞき込むと中は湿っており、奥は暗くて見えません。あまり見かけない穴に好奇心が高まり、スコップで掘ってみることにしました。掘り進めて底が見えてきた時、奥の方でモゾモゾ…。何か動く気配が!? 深さ7cm付近から現れたものは、思いもかけない生き物、スナガニでした。

スナガニは北海道南部以南の砂浜海岸に生息するカニで、日中は砂を掘ってつくった巣穴の中に潜んでいることが多いそうです。「西なぎさ」では、2020年に生息が報告されていますが、私たちの活動で目にしたのは初めてでした。スナガニが掘り出された時は大興奮。疲れもふき飛びました。写真を撮った後はリリース。またスナガニに出会える日がくるでしょうか？ それとも、幻の1回になるでしょうか？ 楽しみです。(教育普及係 高濱 由美子)



現れたのは甲幅3cmほどのメスのスナガニ



スナガニ発見時のようすは公式YouTubeチャンネルでごらんいただけます。
https://youtu.be/qK-MK_J0rBA



なぎさで探そう! こんな生き物

見つけやすさ ★★★★★☆

サイズ 全長5-30cm

見つけるコツ

いつもは砂の中の穴でくらしているから、ふつうに探すだけじゃ、見つからないよ。まずは、つぶつぶした糞でできた、小さな山を探すんだ。見つけたらそっと近づいて、大きなスコップで素早く掘ってみよう。ウネウネと動くイワムシが、きっと砂の中に見つかるはず。

イワムシ (イソメ科)

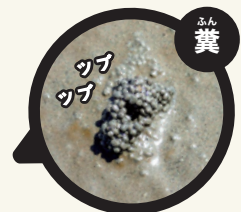
■イワムシはこんな生き物

干潟の上にたくさんの小さな砂団子! これはイワムシというイソメのなかまの糞なんだ。イワムシは、砂粒についている有機物を食べているよ。夜には海藻や小動物等を食べることもあるみたい。消化した後は、巣穴からお尻の端っこを少し出して、小さな粒状の糞をたくさん出すんだ。体はミミズに似ているけど、赤っぽくて平べったい。よくみると体の横からたくさんの足が出ているね。釣りのエサにも使われていて、「イワイソメ」や「アカムシ」といった名前で釣具屋さんで売られていることもあるよ。(教育普及係 小川 悠介)



イワムシ(実物大)

写真: ふなばし三番瀬環境学習館



水族園 のもう一つの顔

「発光生物」コーナーの標本箱



標本の作り方 液浸標本編

水族園では、収集したさまざまな生き物を、研究や教育普及活動で使用するため、標本にして保存しています。標本とは、適切な処理をほどこして保存した生き物の個体またはその一部のことで、乾燥標本、液浸標本、骨格標本など、さまざまな種類があります。今回は、ホルマリンを使用した魚類の液浸標本の作製を、「発光生物」コーナーで展示している標本を例に、ご紹介します。

① 準備



標本にする個体は、ヒレが破れておらず、うろこがはがれていないきれいなものを選びます。種類がわからない時は名前を調べます。きちんと生き物の情報がない標本は価値がないのです。

② 洗浄



次に、体についている粘液やゴミを取り、きれいにします。写真は、体表を傷つけないよう、筆で優しくこすっているところです。えらなど、見えづらい場所についているゴミも忘れずに。

③ ヒレ立て



図鑑等を参考に、体の軸をまっすぐに固定し、閉じている各ヒレを開いて特徴がわかるように姿勢を整えます。のちに研究目的で使用する時には、ヒレやうろこを細かく観察するため、慎重に！

④ 固定



ヒレが固定できたら、ホルマリンに浸して1日おき、腐らず形が崩れないよう、全身を固定します。完全に固定されたら、展示用や保管用にわけて保存しておきます。

⑤ 完成!



展示する場合は、展示用のケースに入れ、見やすいように配置します。浮いているように見えますが、透明な板に穴をあけ、テグスなどで体を固定しています。最後に傷つけてしまわないよう、気をつけながらの作業です。

海の中でじっくり観察することは難しくても、標本になればヒレの形や口の中、その生き物の特徴的な部位など、いつでも観察することができます。

「発光生物」コーナーにある標本の一部は、発光器を観察しやすいように腹部を正面に向けて展示しています。ぜひ、じっくりと標本を観察してみてください！

(調査係 太田 智優)

TSLP LATEST

TOKYO SEA LIFE PARK

- 8/11-14 開園3時間延長イベント「Night of Wonder」を実施
- 8/18-29 高知県でのパショウカジキ採集実施
- 8/24 トピック水槽でタコブネを展示
- 8/24 トピック水槽でニホンウナギ(レプトセファルス幼生)を展示
- 9/2 親子向け観察会「トビハゼの調査地をたずねる」を実施
- 9/12-14 伊豆大島でのライトトラップ採集を実施
- 9/16 トピック水槽でタルマヅ科の一種を展示
- 9/16 小学3・4年生向け「海のおそびや」を実施
- 9/17 小学5・6年生向け「集まれ! 汐っ子たち」を実施
- 9/20 「小笠原の海 4」水槽のアオウミガメ2頭を小笠原へ搬出
- 9/21 オウサマペンギン・ミナミイワトビペンギンの屋外展示を再開
- 9/24 フィールドプログラム「水辺の生き物 わくわく調査隊」を実施



TOKYO
SEA LIFE
PARK

編集後記

若かりし頃に初めて水族園に遊びに来た時、印象的で忘れられなかった魚はルックダウンでした。なんて面白い顔をしているんだらうと、衝撃を受けたのを覚えています。のちに今号に書かれているような利点を知り納得。皆さんにとって、水族園で“推し”のヘンテコ顔の魚は何でしょうか? じつは、そのヘンテコには大事なワケがあるかも知れませんね。(高濱)

SEA LIFE NEWS 通巻 112

Vol.21 No.5 2023 OCTOBER 10月1日発行(次号は2023年12月発行予定)

編集 葛西臨海水族園
〒134-8587 東京都江戸川区臨海町 6-2-3
TEL.03-3869-5152
www.tokyo-zoo.net/

発行 公益財団法人東京動物園協会
〒110-0008 東京都台東区池之端 2-9-7
池之端日殖ビル7階
TEL.03-3828-2143

